

10. 現地調査関連資料<セネガル>

調査団日程

	日付	曜日	時間	調査内容	同行者
1	11月18日	日		調査団日本発(パリ経由)	
2	11月19日	月	21:00	調査団到着	平野調整員、ローカルスタッフ
3	11月20日	火	9:00	森林局長協議	平野調整員、藤村専門家
			10:00	天谷専門家インタビュー	
			11:00	大使館表敬	
			12:00	事務所での打ち合わせ	全調整員
			14:00	事務所での打ち合わせ&コンサルタント	
			15:00	ダカール出発	
			18:30	カオラック到着	
4	11月21日	水	8:30	カオラック出発	阪口企画調査員・大出シニア
			12:30	タンバクンダ州知事協議	
			15:00	タンバクンダ州議会議長協議	
5	11月22日	木	9:00	タンバクンダ州医療事務所表敬	阪口企画調査員・大出シニア
			12:00	グディリ医療センター視察・協議	
6	11月23日	金	8:30	グディリ医療センター協議・患者インタビュー	阪口企画調査員・大出シニア
			12:30	グディリ郡知事表敬	
			15:00	グディリ村女性グループ FGI	
			16:30	グディリ村若手男性グループ FGI	
7	11月24日	土	9:00	ドゥグ診療所視察	大出シニア
			11:30	パニ・イスラエル診療所視察	
8	11月25日	日	8:00	タンバクンダ出発	大出シニア
			16:00	ティエス到着 団内・調整員協議	
9	11月26日	月	8:30	調査団内打ち合わせ	平野調整員、白石シニア
			10:00	クールムッサ郡庁	
			11:00	タワフォール村視察	
			15:00	ティエス州水森林局長	
			17:00	ジャハオ苗畑視察	
10	11月27日	火	8:30	調査団内打ち合わせ	白石シニア
			10:00	ティエナバ郡知事	
			11:30	クールデンバンゴヤ村視察	
			15:00	ンゴメン村視察	
11	11月28日	水	8:00	調査団内打ち合わせ	白石シニア
			9:00	ンドコメン村視察	
			11:30	クールマターフォール村視察	
			17:00	バンガジャ村視察	
12	11月29日	木	9:00	保健予防省表敬/インタビュー	平野調整員
			10:00	公務雇用労働省表敬/インタビュー	
			11:00	JICA 事務所報告	所長、全調整員
			14:00	井上専門家インタビュー/大使館報告	
			15:00	現地コンサルタント中間報告	現地コンサルタント
			23:40	宮原団員ダカール発	平野調整員
13	11月30日	金	9:00	調整員インタビュー	平野調整員
			10:30	12年1次隊中間報告会視察	平野調整員、坪内調整員
			12:00	近藤シニアインタビュー	
			14:30	保健人材開発促進プロジェクト(プロ技)専門家インタビュー	平野調整員
			15:30	近藤シニアインタビュー	平野調整員、坪内調整員
			23:40	駒澤団員ダカール発	平野調整員

主要面談者

セネガル側

公務雇用省技術協力局長
森林局局长
森林局次長
森林局造林保護部長
森林局砂丘植林プロジェクトリーダー
クールムッサ郡知事
ティエナバ郡知事
ティエス州水森林局長
ジャハオ苗畑管理者(元 C/P)
プット苗畑管理者(元 C/P)
ディエナバ苗畑管理者(元 C/P)
ジャハオ苗畑職員
Tawa Fall 村人
Keur Demba Ngoye 村人
Ngomene 村人
Ndoucoumane 村人
Keur Matar Fall 村人
Baghandji 村人

Papa Birama Thiam
Ndiawar Dieng
Amadou Noiayf
Papa Ndiaye
Samba Thiam
Amadou Bamba Sylla
Alioune Diop
Clement Diedhiou
Mansour Diop
Mamadou Dieme
Matar Sagna
Mbaye Diop

保健予防省保健局長
タンバクンダ州政府行政担当副知事
同開発担当副知事
タンバクンダ州議会主席副議長
タンバクンダ州議会事務局長
グディリ郡知事
同森林開発局長
グディリ郡村長
<グディリ医療センター>
所長 (医師)
事務局長
麻酔士
看護師
臨床検査技師
助産婦
衛生士 (予防接種担当)
視聴覚技師
保健委員会会長
同副会長
同監査役
入院患者 (4名)
外来患者 (2名)
グディリ村・女性グループ「開発」
グディリ村・「グディリ若手男性の会」

Mandiaye Loum
Alioun Badara Mbengue
Aliouae Diagne
KabineKABA Diakite
Youssoupha Diallo
Mamadou Diatta
Aliou Aidara
Tingiang Tadio

Fanding Badji
Amadou Niane
Abdonlanye Diop
Jean Francois Thaw
Cheukh Bouya
Aminata Bodian
Eil Hadji
Aamadou Gackou
Amadou Diarra
Cply Ndiaye
Samba guindo

日本側

<JICA フランス事務所>

所長

辰見 石夫

職員

梅本 真司

<日本大使館>

大使

古屋 昭彦

次官

飯沢 良隆

一等書記官

西内 和彦

<JICA セネガル事務所>

所長

黒川 恒男

広域企画調査員

阪口 佳代

JOCV 調整員
同上
同上
JOCV 医療調整員
高級クラーク

平野 友洋
石川 梨絵
坪内 君与
森 龍子
Idrissa Doucoure

個別専門家 (青年・環境・衛生省／森林行政アドバイザー)

藤村 武

個別専門家 (内務省農村開発局／村落開発アドバイザー)

井上 茂

プロ技「地域総合植林開発プロジェクト」専門家

天谷 一郎 (元グディリ医療プロジェクトリーダー・シニア隊員)

プロ技「保健人材開発促進プロジェクト」専門家

清水 利恭

同上

田村 豊光

同上

長堀 智香子

<JOCV>

シニア隊員

大出 理恵

同上

白石 健治

同上

近藤 直

隊員

川筋 光洋

隊員

水口 亜紀

隊員

土沢 うらら

隊員

青山 弘美

隊員

平田 昌信

隊員

戸川 歎奈

同上

12年1次隊全員、他

<現地コンサルタント (GERAD) >

総括

Amadou Diop

研究員 (グディリ担当)

Aminata Niang Diene

同 (ティエス社会学担当)

Camara Cheikh Moussa

同 (ティエス林業担当)

Ababacar Sy

通訳 (グディリ担当)

Cousson Traore

通訳 (ティエス担当)

Greg Tardi

現地調査事項（評価グリッド含む）

1. プロジェクト評価（評価グリッド）

(1) セネガル・緑の推進協力プロジェクト

	調査事項	主な調査対象	手法
有効性の検証	・プロジェクト目標達成度（定量的補足）	C/P 機関	H, D
	・成果の達成度（定量的補足）	農民グループ	A, FGI
上記に影響を与えた促進要因/阻害要因			
妥当性の検証	・政府の政策、優先順位との合致度	政府機関	H, D
	・C/P 機関のニーズとの合致度 ・計画のデザインについての妥当性 (チーム派遣の体制、技術の種類、投入の規模等)	C/P 機関	H, D
	・農民のニーズとの合致度	農民グループ	A, FGI
	・セ国の国別援助実施計画との整合性、支援の優先順位との整合性	JICA 事務所・大使館	H
インパクトの把握	・プロジェクトの実施により間接的・波及的效果はあったか 1.上位目標の達成度 (全国の植栽面積の推移、住民の意識の変化、農村の環境の向上、農民の生計向上) 収入の増加 2.予期しなかった正・負の波及効果 2-1 政策、法制度への影響 2-2 社会への影響 2-3 技術面での影響 2-4 ジェンダー、弱者の立場への影響 2-5 環境保護への影響	政府機関	H, D
	同上	C/P 機関	H, D
	上記のうち、特に2-2（地域社会への影響）と2-4	農民グループ	A, FGI
自立発展性の把握	・政府の方針、予算措置	政府機関	H, D
	・組織体制（職員数、予算） ・キャパシティービルディングの醸成 ・公営苗畑、果樹園、野菜園において、プロジェクト終了時と同様の技術を提供できているか ・公営苗畑において開発された果樹栽培技術の定着度 ・公営苗畑における野菜栽培技術の開発と普及状況 ・提供した機材の維持管理状況 ・終了時評価の提言（苗木の有料化、土地管理の改善策）はその後、検討・実施されているか	C/P 機関	H, D
	・農村における、苗畑、アグロフォレストリー園、果樹園、野菜生産の実態 (農民グループの活動概況) (村落における植林数と活着率) (果樹の生産量) (野菜栽培技術の普及状況、村落における野菜生産量) (過去10年間における農民の生活レベルの推移)	農民グループ	A, FGI

H: ヒアリング、A: アンケート、FGI: フォーカスグループインタビュー、D: データ収集

A: アンケート内容は別紙参照

(2) セネガル・グディリ医療プロジェクト

	調査事項	主な調査対象	手法
有効性の検証	・プロジェクト目標達成度 (定性的補足) (医療者の医療技術、医療サービスの向上の検証) (予防摂取率、各種疾病罹患率)	C/P 機関 ・タンハ・クンダ州 政府 ・グディリ医 療センター、 母子センタ ー、診療所)	H, D H, A, D
	・成果の達成度 (定量的補足) (住民の健康状態の過去 10 年間の推移) (住民の健康に関する意識・知識) (母子保健、家族計画の実践状況)	患者・母親	A, FGI
	上記に影響を与えた促進要因/阻害要因		
妥当性の検証	・政府の政策、優先順位との合致度	政府機関	H, D
	・C/P 機関のニーズとの合致度 ・計画のデザインについての妥当性 (チーム派遣の体制、技術の種類、投入の規模等)	C/P 機関	H, D
	・住民のニーズとの合致度	患者・母親	A, FGI
	・セ国の国別援助実施計画との整合性、支援の優先順位 との整合性	JICA 事務所・ 大使館	H
インパクトの把握	・プロジェクトの実施により間接的・波及的効果 はあったか 1. 上位目標の達成度 (妊産婦死亡率、乳幼児死亡率、50 歳の平均 妊娠回数、年代別平均体重・身長) ・収入の増加) 2. 予期しなかった正・負の波及効果 2-1 政策、法制度への影響 2-2 社会への影響 2-3 技術面での影響 2-4 ジェンダー、弱者の立場への影響 2-5 環境保護への影響	政府機関	H, D
	同上	C/P 機関	H, D
	上記のうち、特に 2-2 (地域社会への影響) と 2-4	患者・母親	A, FGI
自立発展性の把握	・政府の方針、予算措置	政府機関	H, D
	・組織体制 (職員数、予算、業務実績) ・キャパシティービルディングの醸成 ・州政府と医療センターの協議・連携の継続性 ・プロジェクト終了時と同様のサービスを提供でき ているか (予防接種、健康診断、村落における乳幼児健診、 学童検診、健康教育活動、医療スタッフ研修) ・医療センター検査室の独立採算の状況 ・プロジェクトで作成した教材等の活用状況 (医療圏マ ップ、ビデオ) ・提供した施設・機材の維持管理状況 (センターの検査 室・手術室・歯科室・発電機・ゴミ医焼却炉、視聴覚機 材、研修所、診療所等)	C/P 機関 ・タンハ・クンダ州 政府 ・グディリ医 療センター、 母子センタ ー、診療所)	H, A, D
	・各施設に対する医療サービスの利用状況とその満足度 ・各施設に対する要望	患者・母親	A, FGI

H: ヒアリング、A: アンケート、FGI: フォーカスグループインタビュー、D: データ収集

2. 現地支援体制（現地業務）の改善点

（シニア隊員 OB）

- ・ 現地支援体制の問題点と改善方法は何か（任地訓練、巡回指導、レポーティング、機材調達、予算確保・執行、安全対策、任国外研修旅行、事務処理、といった観点から）。

（JICA 事務所）

- ・ 現地受入体制と課題
- ・ 現地訓練の実施体制と課題。
- ・ 現場からみて、チーム派遣の募集、選考、派遣前訓練、派遣時期の課題。
- ・ チーム派遣事業の事務局との連携に関する改善点。

3. プロジェクト形成の課題と改善点

（JICA 事務所）

- ・ 各対象案件に関して：どのようにプロジェクトが形成されたか。そのときの問題点、課題は？
- ・ 今後、プロジェクト形成に改善を求める点は？
- ・ プロジェクト形成に JOCV が係わる可能性について
- ・ 他スキームとの連携の可能性について
- ・ 派遣前後の国内支援体制に関する要望

（政府関係機関、C/P 機関）

- ・ 各対象案件に関して：案件形成にどれくらい参画したか。今後、プロジェクト形成に改善を求める点は？
- ・ 他スキームとの連携の可能性について

4. 「相互理解」に関しての現地サイドへのインパクト・評価

（ボランティア受入機関、派遣隊員、C/P）

- ・ 当該プロジェクトでは、相互理解がなされたと思うか。それはなぜか。
- ・ 「相互理解」を促進する具体的な隊員の活動とは何か。
- ・ 他国のボランティアと比較して日本のボランティアはどんな特徴があるか。貢献度はどのように何の指標をもって評価されているか。

（受入機関、JICA 事務所）

- ・ 当該国において「相互理解」がなされるメリットは何か。それは将来的に何に役立つか。
- ・ 「相互理解」を促進する具体的な隊員の活動とは何か。

(JICA 事務所)

- ・「相互理解」を促進する具体的な隊員の活動とは何か
- ・「相互理解」に成功したと思われるチーム派遣は何で、それはどのようなところから推察されるのか。
- ・日本が実施する他の援助スキームと比較して、また個別派遣と比べて、チーム派遣事業は「相互理解」に効果的か。
- ・「プロジェクトの成果」を重視すべきか、それとも「人材育成」「相互理解」を重視すべきか。それはなぜか。

(関係者全員)

- ・「相互理解」を深めるために今後のチーム派遣事業は今後何を提供し、どうあるべきか。

4. 「人材育成」に関する現地サイドの評価

(JICA 事務所、他日本人関係者)

- ・ JOCV (個別/チーム派遣) は、ODA に係わる国際社会協力の人材の場となっているか？

緑の推進協カプロジェクト・フォーカス・グループ・インタビュー

FOCUS GROUP RESULTS 1	
Identification	
Village*: DIAMOYE GAYE	Number of concessions*: 20
Rural Community*: Fand ne	Number of households*: 21
Arrondissement*: Keur Moussa	Population*: 125
Infrastructures	
<ul style="list-style-type: none"> - 1 mosque - 1 SDE tap 	<ul style="list-style-type: none"> - 1 reading and writing class - 4 wells including 2 functional ones
Internal Organisations	Other intervening parties
<ul style="list-style-type: none"> - Women s association - Dahira (religious activities) 	<ul style="list-style-type: none"> - None
Types of soils	Vegetation
<ul style="list-style-type: none"> - Clayey-sandy soils (mainly) - Sandy soils 	<ul style="list-style-type: none"> - Depressed - <u>Species</u>*: Kad, Gouye, Ron, Ratt
Cultures	Cattle
<ul style="list-style-type: none"> - Manioc - Peanut - Millet - Ni b beans 	<p style="text-align: center;">Number*:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 10 bovines - 40 ovines - 35 caprines - 10 horses <p><u>Way of breeding</u>*:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Individual cattle

Awareness of PROVERS <ul style="list-style-type: none"> - Know the volunteers very well - Intervention from 1992 to 1998 - Before PROVERS there were no other intervening organizations - Only GPF activity (Women's Group activities) before PROVERS started : protective sacking - GPF (Women's Group activities) was officialised when the Japanese volunteers arrived 	
PROVERS Activities	
<ul style="list-style-type: none"> - Village nursery <ul style="list-style-type: none"> • 1994-1998: 1000 plants / year were produced • After 1998 the collective nursery was abandoned and some individual nurseries were created • Villagers grieve that since the Japanese left, they do not get seeds. - Reafforestation <ul style="list-style-type: none"> • Individual and collective orchards • Groves and linear planting around • Training was led in Fand ne • Success rate: about 30 % - Market gardening <ul style="list-style-type: none"> • Scouring of a well by the Japanese volunteers • Income: 50.000 F CFA average / year during 6 years • This money was used to finance the breeding of bovines that were later sold • Market gardening was not achieved last year; but they will do it again this year. - Market breeding <ul style="list-style-type: none"> • Three animals were bred, financed by the market gardening • This activity has been running for 6 years. 	
Impacts <ul style="list-style-type: none"> - They now have bovines, financed by the market gardening activity - Sensitization about trees. 	Relationship with the volunteers <ul style="list-style-type: none"> - Excellent relationship - Used to spend the nights in the village - Used to dance with the villagers
Communication between volunteers and villagers <ul style="list-style-type: none"> - Spoke a bit of wolof, not very well 	Needs <ul style="list-style-type: none"> - Market gardening - Water pumps or wells - Plantations - Reinforcement of the shop - Mill.

FOCUS GROUP RESULTS 2	
Identification	
Village*: NDOUCOUMANE	Number of concessions*: 116
Rural Community*: Touba Toul	Number of households*: 200
Arrondissement*: Thi naba	Population*: 1100 (including 2 hamlets)
Infrastructures	
<ul style="list-style-type: none"> - 1 water pump with a tap - 1 health post - 1 maternity - 1 school - telephone 	<ul style="list-style-type: none"> - mill - mosque - 5 wells (all fonctionnal) - 1 granary for seed-storage
Internal Organisation	Other intervening parties
<ul style="list-style-type: none"> - 1 women s association - 1 men s association - 1 acricultural cooperation 	<ul style="list-style-type: none"> - CARITAS*: banking, hydrosystem, threshing machine, telephone - ASRADEC*: health, reading and writing, sensitization - PROVERS*: reafforestation
Soils	Vegetation
<ul style="list-style-type: none"> - Sandy soil - Calyey-sandy soil - Khom 	<ul style="list-style-type: none"> - Kad (mainly) - A bit depressed, but the Kad parc is still quite dense
Cultures	Cattle
<ul style="list-style-type: none"> - Peanut - Millet 	<ul style="list-style-type: none"> - Manioc - Ni b beans <p>Importance*: ovines, caprines, bovines Way of breeding : Rotating fallow (yearly)</p>
Awareness of PROVERS	Relationship with the volunteers
<ul style="list-style-type: none"> - Villagers know well the different Japanese volunteers whocame to the village - Their actions were very usefull to the villagers 	<p><u>Quality of the relationship</u>*: The village welcomed an American Peace Corps volunteer before the Japanese . The relationship was very good with the Japanese, but the best was KONAVA , who slept and had his meals with the villagers . After him, the other Japanese were only visiting the village to see what he had achieved, but they did not stay</p>
PROVERS Activities	
<p>Reafforestation</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1st year*: over 1000 trees around the market gardening spot. 90 % rate of failure for the fruit-trees, due to the new technique • 2nd year*: no reafforestation because there were already a lot of trees • 3rd year*: 1400 plants on another field (prosopis, guava tres, mango trees) Failure rate*: 85 % • 4th year*: reafforestation of the second field <p>Nuresery</p> <ul style="list-style-type: none"> • Collective nuresery for mango trees only during the second year <p>Market gardening</p> <ul style="list-style-type: none"> • Hydraulic means built by the volunteers (well, pools, fence) • 1st year*: 235.000 F CFA • 2nd year : drilling well out of order • 1st year income used for the opening of a shop that got stolen twice 	
Impacts	
<ul style="list-style-type: none"> - The village had become a provider of vegetables for the aera - Self consumption of the vegetables (improvement in the nutrition) - Since the volunteers left, they buy their vegetables at the Toub Toul market - The villagers rely too much on the projects because they have seen so many - Reinforcement of the social solidarity (creation of an internal credit system for women) 	
Communication volunteers / villagers	Needs
Broken French. The villagers know a bit of French too	<ul style="list-style-type: none"> - Hydraulic system - Restoring of the maternity - Electricity - Building of the road between Ndoucoumane and Touba Toul (14 kms)

FOCUS GROUP RESULTS 3	
Identification	
Village ^o : DIEMODIO	Number of concessions ^o : 6
Rural Community ^o : Thi naba	Households: 35
Arrondissement ^o : Thi n ba	Population ^o : about 250 personnes (including 70 religious students)
Infrastructures	
<ul style="list-style-type: none"> - mosque - arabic school - storage building 	<ul style="list-style-type: none"> - 1 motorised pump for market-gardening (ASPRODEB) - 1 well for drinking water - 6 wells for market gardening, 3 are fonctionnal
Other intervening parties	Internal Organisations
<ul style="list-style-type: none"> - PROVERS (1996 to 1998) - ASPRODEB (2000) 	<ul style="list-style-type: none"> - 1 co-ed association, 45 members including 23 women who created a sub-group for economic developpement
Soils	Vegetation
<ul style="list-style-type: none"> - Sandy (mainly) - Clayey in the valley 	<ul style="list-style-type: none"> - A lot of vegetation in the valley - Depressed on the sandy soild - Esp ces dominantes^o: Kad, New, Mboul.
Cultures	Cattle
<ul style="list-style-type: none"> - Millet and peanut mainly - Manioc, bissap, watermelons - Market gardening 	<ul style="list-style-type: none"> - Very few animals (80 sheeps) - Way of breeding^o: keeping in sheds

Awareness of PROVERS

- Intervention from 1996 to 1998
- The village has had a few forestry activities before PROVERS
- Good knowledge of the several volunteers who came to the village

PROVERS Activities**Collective nursery**

1996°: 3000 plants

1997°: 4000 plants

1998°: 5000 plants

1999°: 3000 plants

2000°: 2000 plants

2001°: 0 plants (bad quality seeds)

Plantations

- Around the market garden (fruit trees and trees against the wind)
- Tree planting to create shed
- Average success rate°: < 30 % (because of the dryness and of the termites (white ants))

Hydraulic

- **Equipment** for well scouring

Market gardening

- Income :
 - 1997°: 1.000.000 F CFA
 - 1998°: 500.000 F CFA
 - 1999°: no water in the market garden s wells
 - 2000°: intervention ASPRODEB (building of a drilling well)
 - 2001°: Market gardening restarted thanks to the drilling well

Market gardening

Income :

- 1997°: 1.000.000 F CFA
- 1998°: 500.000 F CFA
- 1999°: no water in the market garden s wells
- 2000°: intervention ASPRODEB (building of a drilling well)
- 2001°: Market gardening restarted thanks to the drilling well

Training

- Tree planting technique : 1996 et 1997
- Grafting°: 1997 et 1996.

<p>Construction coranic school</p> <ul style="list-style-type: none"> • Involvement of the villagers: unqualified workforce • Involvement of the volunteers: equipment and qualified workforce <p>Poultry farming</p> <ul style="list-style-type: none"> • Hen roost entirely financed by a volunteer • 1st operation: 80 % of the chickens were lost • 2nd operation: 150 chickens plus the 60 from the 1st year; the laying of eggs started 2 months ago <p>Keeping bovines in shed</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1st operation: 5 animals financed by the volunteer (150.000 F / unit), 1 animal died; after the selling of the other animals the benefits were 500.000 F; this operation lasted 15 months. • 2nd operation: 2 animals that were taken care of by shepards, died because of an epidemic . <p>NO TRAINING ABOUT KEEPING BOVINES IN SHED FOR THE POPULATION</p>	
<p>Impacts</p> <ul style="list-style-type: none"> - Reduction of conflicts between farmers and animal breeders - More water - Developpement of market gardening - More income 	<p>Relationship with the volunteers</p> <ul style="list-style-type: none"> - Excellent relationships, volunteers well integrated in the village - Often sleep in the village - Individual credit given to some villagers because the onions crop was late - Diversification of activities due to the good relationships with volunteers (poultry)
<p>Communication</p> <ul style="list-style-type: none"> - Problems with the volunteers language skills: a bit of French, a bit of wolof, a lot of gestures - Sometimes the forestry agent has to translate, especially during the training activities 	<p>Needs</p> <ul style="list-style-type: none"> - Help with market gardening - Help with keeping animals in shed - Millet mil - Need for a water tank, water supply system

FOCUS GROUP RESULTS 4	
Identification	
Village°: TAWA FALL	Number of concessions°: 14
Rural Community°: Fand ne	Number of households°: 24
Arrondissement°: Keur Moussa	Population°: 340 in the year 1996
Infrastructures	
<ul style="list-style-type: none"> - 1 mosque - 1 clinic - 1 kindergarden 	<ul style="list-style-type: none"> - health hut (unequipped) - 5 wells - 1 collectice shop
Other intervening parties	Organisation Internes
<ul style="list-style-type: none"> - POVC - POVERS - ENSA 	<ul style="list-style-type: none"> - FED - Green Sahel
Sols	Vegetation
Mainly clayey-sandy	<ul style="list-style-type: none"> - Mango trees - Kadd
Cultures	Cattle
<ul style="list-style-type: none"> - Groundnut, manioc (mainly) - Millet - Ni b beans - Watermelons 	<p>Very few animals°: 3 bovines, 10 ovines, 60 caprines, 12 equines, 7 donkeys.</p> <p>Individual cattle</p>
Awareness of PROVERS	
<ul style="list-style-type: none"> - Intervention since 1996 - Good involvement in the activities initiated by the project 	
PROVERS Activit s	
<p>Village nursery 1997°: 10.000 plants 1998°: 11.000 plants Since 1999 , plants production was individual</p> <p>Plantations</p> <ul style="list-style-type: none"> - Eucalyptus and market gardening parcels - Good success for the fruit trees, which resisted better than Eucalyptus trees. <p>Hydraulics</p> <ul style="list-style-type: none"> - Digging of a well (labor force paid by the villagers°: 35.000 FCFA) <p>Training</p> <ul style="list-style-type: none"> - Nursery techniques - Plantation techniques - Grafting techniques - Improved ovens - Improvement of fertilization techniques, some were already known by the villagers - Techniques for producing anti-white ants chemicals from "neem" trees <p>Other activities</p> <ul style="list-style-type: none"> - Poultry farming - Collective shop - Storage building - Breeding and selling of animals in cooperation with ENSA 	
Impacts	Relationship with volunteers
<ul style="list-style-type: none"> - Rural depopulation stopped - Higher income - Acquiring of agricultural techniques - Better solidarity - Better organization - Diversification of activities and sources of income 	<ul style="list-style-type: none"> - Good integration - No communication problem - Shing s family came to Tawa Fall
Communication volontaire/villageois	Needs
	<ul style="list-style-type: none"> - Improvement of the water system

FOCUS GROUP RESULTS 5	
Identification	
Village*: NGOMENE	Number of concessions*: 40
Rural Community*: Keur Moussa	Number of households*: 60
Arrondissement*: Keur Moussa	Population*: 1200
Infrastructures	
<ul style="list-style-type: none"> - 1 mosque - 1 coranic school - 4 wells (3 functional) 	<ul style="list-style-type: none"> - 2 shops - 1 Women s House
Intervenants ext rieurs	Internal organisations
<ul style="list-style-type: none"> - UNICEF - Belgian Project (for the Women s House) - German project (for the digging of the well) 	<ul style="list-style-type: none"> - 1 Women s association - 1 Men s association - 1 Economic Developpement Group - 1 Youth Association
Soils	Vegetation
<ul style="list-style-type: none"> - Clayey 	<ul style="list-style-type: none"> - Mango trees - Eucalyptus - Prosopis - Kadd
Cultures	Cattle
<ul style="list-style-type: none"> - Millet - Manioc - Egg plant - Tomatoes - Gombo (local vegetable) 	<ul style="list-style-type: none"> - Horses - Beefs - Ovines - Caprines
Awareness of PROVERS	
<p>Since 1987 the village has a few forestry activities before PROVERS Good knowledge of the several volunteers who came to the village</p>	
PROVERS Activities	
Impacts	Relationship with volunteers
<ul style="list-style-type: none"> - Permitted the acquisition of a certain experience - Agro-forestry techniques, - Income 	<ul style="list-style-type: none"> - good integration of the volunteers - participation to the activities - sheered the house and the meals
Communication	Needs
Good communication	<ul style="list-style-type: none"> - Hydraulic - Strengthening the training activities - Health hut

FOCUS GROUP RESULTS 6	
Identification	
Village: Sindiane II	Number of concessions: 27
Rural Community: Touba Toul	Number of households: 41
Arrondissement: Thi naba	Population: 450
Infrastructures	
<ul style="list-style-type: none"> - 2 wells that are dry during the dry season - 1 mosque - Village under the influence of Touba Toul (less than 1 kilometer away) 	
Other intervening parties	Internal Organisation
- Red Cross (in Touba Toul)	- 1 Women s association for 3 villages (over 200 members)
Soils	Vegetation
<ul style="list-style-type: none"> - Clayey-sandy (100 %) 	<ul style="list-style-type: none"> - Quite well preserved, but aging - Main species: kad, soump
Cultures	Cattle
<ul style="list-style-type: none"> - Groundnut, millet, ni be beans 	<ul style="list-style-type: none"> - Bovines, ovines, caprines - Individual cattle
Awareness of PROVERS	
<ul style="list-style-type: none"> - Intervention from 1992 to 1994 - Villagers remember the volunteers. 	
PROVERS Activit s	
<p>Village nursery:</p> <ul style="list-style-type: none"> * 1992: 400 plants * 1993: 300 plants * 1994: abandoned <p>Plantation:</p> <ul style="list-style-type: none"> * 1992: village forest * 1993: second try to grow wood * 1994: stopped, success rate under 10% <p>Market gardening:</p> <p>obtained equipment in 1994 to scour the well, but it was stolen by the well sinker: reason why the intervention stopped in this village</p> <ul style="list-style-type: none"> * 1993: 27 000 FCFA * 1994: 64 000 FCFA <p>Activity abandonned in 94 (water shortage)</p> <p>Forestry exploitation:</p> <ul style="list-style-type: none"> 1^{re} cut three years ago: 40 000 FCFA 2nd cut will happen in a few months 	
Impacts	Relationship with volunteers
<ul style="list-style-type: none"> - Knowledge as regars market gardening - Income from the wood hard to evaluate 	<ul style="list-style-type: none"> - Quite good - But the volunteers never spent the night in the village
Communication volunteers/villagers	Needs
<ul style="list-style-type: none"> - Very bad language skills, more gestures than words - Difficult to understand 	<ul style="list-style-type: none"> - Market gardening - Breeding of animals (to sell them) - Hydraulics - Millet

FOCUS GROUP RESULTS 7	
Identification	
Village°: Keur Matar FALL	Number of concessions°: 10
Rural community°: Thi naba	Number of households°: 20
Arrondissement°: Thi naba	Population°: 250
Infrastructures	
<ul style="list-style-type: none"> - 1 mosque - 3 wells 	- Chairs, bowls, nattes, etc... for the Women s association.
Other intervening parties	Internal Organisation
<ul style="list-style-type: none"> - PROVERS - Peace Corps - RODALE (market gardening) 	<ul style="list-style-type: none"> - 1 Women s association 30 members - 1 Youth association (17 members who take care of the market gardening activity)
Soils	V g tation
<ul style="list-style-type: none"> - Sandy - Valley soils (fertile) 	<ul style="list-style-type: none"> - Good condition - Kad, new
Cultures	Cattle
<ul style="list-style-type: none"> - Groundnut, millet - Individual parcels 	- Bovines, ovines, caprines
Awareness of PROVERS	
<ul style="list-style-type: none"> - Started in 1992 	
PROVERS Activities	
<p>Reforestation and nursery°: * 1992°: nursery (200 plants) et plantation of a village forest (1,5 hectare, unded by PRS = 400 000 FCFA) * 1993°: improved ovens</p> <p>Fruite tree planting 1994°: two types of fruit trees (°anacardier° and °sounp°) Failure, due to the white ants. Advice°: developpemt of a market gardening activity in the valley</p> <ul style="list-style-type: none"> - Success rate of the activities°: 40% 	
Impacts	Relationship with volunteers
<ul style="list-style-type: none"> - 1999°: 50 000 FCFA from the wood, micro-credit system, making of soap. This capital brought 25 000 FCFA (benefits) - Improved ovens have reduced the consumption of wood 	<ul style="list-style-type: none"> - Good, the volunteers gave money to the children
Communication	Needs
<ul style="list-style-type: none"> - Average wolof skills 	<ul style="list-style-type: none"> - Hydrolics system - Road Thi naba - Keur Matar FALL - Mill - Health hut - Electricity

FOCUS GROUP RESULTS 8	
Identification	
Village*: Keur Mory NDIONE	Number of concessions*: 6
Rural Community*: Touba Toul	Number of households*: 15
Arrondissement*: Thienaba	Population*: 150
Infrastructures	
<ul style="list-style-type: none"> - 1 mosque - 3 wells, including 2 fonctionnal 	
Other intervening parties	Internal organisation
<ul style="list-style-type: none"> - None 	<ul style="list-style-type: none"> - 1 Women s association 34 members - 1 Dahira (religious group) of 40 members
Soils	V g tation
<ul style="list-style-type: none"> - Sandy mainly - Some clayey-sandy soils 	<ul style="list-style-type: none"> - depressed - Main species*: Kadd, new, yiir
Cultures	Cattle
<ul style="list-style-type: none"> - Millet and peanut mainly - Ni b , bissap, watermelons 	<ul style="list-style-type: none"> - Few animals (2 bovines, 20 ovines, 15 caprines) - Individual cattle

Awareness of PROVERS	
<ul style="list-style-type: none"> - Intervention from 1997 to 1998 - Villagers know well the different Japanese volunteers 	
Activities led with PROVERS and after the project	
Village nursery:	
<ul style="list-style-type: none"> * 1997: 150 plants * 1998: 150 plants * 1999: none (lack of water) 	
Plantation:	
<ul style="list-style-type: none"> * Eucalyptus fields * Success rate is low, 16 %; because of white ants and water shortage 	
Hydraulics:	
<ul style="list-style-type: none"> * Building of a market gardening well. 	
Mara chage:	
<ul style="list-style-type: none"> * Egg-plant, cabbage, carot, turnip, salad, parsleyl; * Income: 1997: 25 000 FCFA 1998: Division if the field into 7 individual parcels, the income of which varies between 3000 and 5000 FCFA; 1999: Water shortage, end of the activity 	
Training:	
<ul style="list-style-type: none"> *Nursery techniques * Planting techniques * Market grdening techniques * Grafting techniques 	
Impacts	Relationship whith the volunteers
<ul style="list-style-type: none"> - Villagers technical knowlegde improved - Agroforestry techniques. 	<ul style="list-style-type: none"> - Good integration of the volunteers - Participation to the activities - Shared the houses and the meals
Communication between volunteers and villagers	Needs
<ul style="list-style-type: none"> - Good communication thanks to the Eaux et For ts agent who translated. 	<ul style="list-style-type: none"> - Solution to the water problem - Monitoring for market gardening - Strengthening of the training activities - Strengthening of the teaching of reading and writing - More equipment (mill)

FOCUS GROUP RESULTS 9	
Identification	
Village: Keur Demba Ngoye	Number of concessions: 50
Rural community: Fand ne	Number of households: 67
Arrondissement: Keur Moussa	Population: 1967
Infrastructures	
<ul style="list-style-type: none"> - 1 mill for the millet (out of order) - 1 mosque - 1 school - 1 Arabic school - 1 reading and writing class 	<ul style="list-style-type: none"> - 1 health hut - 7 wells (4 are not functional) - 4 shops - 1 shop for the group
Other intervening parties	Internal Organisations
<ul style="list-style-type: none"> - TOSTAN - AS - PAB - PROVERS 	<ul style="list-style-type: none"> - 1 Women s association - 1 Association for Sports and Culture
Soils	Vegetation
<ul style="list-style-type: none"> - Sandy - Clayey-sandy 	<ul style="list-style-type: none"> - Kadd, Mango, Darkass , Ronier

Cultures	Cattle
- Millet, manioc, peanut, bissap, ni b beans	- Bovines (70), Ovines (500), caprines (200).
Awareness of PROVERS	
<ul style="list-style-type: none"> - In 1985, 2000 plants - Intervention in 1987 with the Women s association to create a village forest 	
PROVERS Activities	
<ul style="list-style-type: none"> * 1990, 17 000 plants (nursery) * 1992, 3 000 plants (nursery) * 1993, 5 000 plants (nursery) * 1998, 10 000 plants (nursery) * 1999, 52 000 plants (nursery) - Market gardeing, income*: 200 000 FCFA, but stopped due to the lack of water 	
Impacts	Relationship whith the volunteers
<ul style="list-style-type: none"> - Permitted the acquiring of a certain experience - Income 	<ul style="list-style-type: none"> - Good
Communication between volunteers and villagers	Needs
<ul style="list-style-type: none"> - Quite good mutual understanding 	<ul style="list-style-type: none"> - Find a solution to the water problem - Help with the market gardening

FOCUS GROUP RESULTS 10	
Identification	
Village*: Banghandj	Number of concessions*: 30
Rural Community*: Thi naba	Number of households*: 43
Arrondissement*: Arrondissement	Population*: 550
Infrastructures	
<ul style="list-style-type: none"> - 1 mosque - 1 great mosque - 1 drilling well with taps - 1 cooperative store - 1 secco 	<ul style="list-style-type: none"> - 1 clinic - 1 school - 1 maternity (no equipment) - 1 cart pound - 1 telephone (under construction).
Intervening parties	Internal Organisations
<ul style="list-style-type: none"> - - PROVERS (ended in 1998) - POGV (ended) - FED (ended) - 	<ul style="list-style-type: none"> - 1 Women s association (57 members) - 1 Association for Sports and Culture - Dahiras (religious groups) - Health committee - Drilling well Management Committee - Pupils Parents Association
Sols	Vegetation
<ul style="list-style-type: none"> - Sandy - Clayey 	<ul style="list-style-type: none"> - Dense - Kadd, mango trees
Cultures	Cattle
<ul style="list-style-type: none"> - Groundnut, manioc, ni b beans, millet 	<ul style="list-style-type: none"> - Bovines, ovines, caprines, equines and poultry
Awareness of PROVERS	
<ul style="list-style-type: none"> - Grieve that the Japanese intervention has stopped - Intervention of volunteers in 1988 (CERP) - Intervention of PROVERS from 1989 to 1995 	
PROVERS Activities	
Nurseries and plantations*:	
* 1989 nurseries (650) + 1 hectare of eucalyptus	
* 1990 nurseries (1400) + 2 hectares of eucalyptus	
* 1991 / 1995 spreading of chemicals to fight against white ants + maintenance + fence, individual plantations	
* Since 1995, plants received from Thi naba, 700 plants/hectare on average (strong natural regeneration)	
Impacts	Relationship with volunteers
<ul style="list-style-type: none"> - Selling of eucalyptus*: <ul style="list-style-type: none"> 1st cut*: 210 000 FCFA 2nd cut*: 500 000 FCFA <p>this income financed a shop related to POGV and CMS, a micro-credit system (interest rate*: 10% for 3 months), and a distribution of drugs to fight against malaria</p>	<ul style="list-style-type: none"> - Good, but a sudden stop of the project causes problems.
Communication volunteers/villagers	Needs
	<ul style="list-style-type: none"> - More fruit trees - Hydraulics

緑の推進協カプロジェクト実績・機材リスト等

Productions of the tree nurseries under state supervision

Years	Diakhao			Thienaba			Keur Moussa			General Total
	Forestry plants	Fruits plants	Total	Forestry plants	Fruits plants	Total	Forestry plants	Fruits plants	Total	
1987	53333	48663	101996							101996
1988	43315	59810	103125							103125
1989	189380	225160	414540							414540
1990	170850	199700	370350	75750	78660	154410	28428	31526	59954	584714
1991	158820	185595	344415	75000	78000	153000	80430	82220	162650	660065
1992	231863	107248	339112	116020	19994	136014	116272	28168	144436	619561
1993	291750	20618	312368	109800	8000	117800	146500	5077	151577	581745
1994	289262	85550	374812	103800	6885	110685	10212	614	10826	496323
1996	377273	14784	392057	117432	8550	125982	115566	20618	136184	654223
1996	280000	120000	400000	129401	6430	135831	120502	21986	142488	678319
1997	315000	135000	450000	105700	9147	114847	132455	20642	153097	717944
1998	280000	120000	400000	125126	7682	132808	131895	24215	156110	688918
1999	262500	112500	375000	122159	3520	125679	127700	22300	150000	650679
2000	245000	105000	350000	142186	6060	148246	202885	31547	234432	732678
2001	289805	69096	358901	169864	6999	176863	182424	49053	231477	767241

Assessment of realisations as far as forestry and fruit plantations are concerned

Years	Thienaba				Keur Moussa			
	Number of villages	Massive plantation	Linear plantation	Orchard	Number of villages	Massive plantation	Linear plantation	Orchard
1996	15	21	27,8	4	36			
1997	13	17	17,7	3	32	23,36	28,46	117,05
1998	18	23,5	22,905	6	36	15,5	51,16	74,05
1999	30	27,5	37,5	4	52	24,27	35,69	195,04
2000	18	34	40,7	7	42	45,88	42,05	84,4
2001	21	36	31,2	6	55	47,5	78,73	188

Village tree nurseries in Thienaba

Years	Forestry plants	Fruits plants	Total
ANNEES	Plants forestiers	Plants fruitiers	Total
1996	2800	1000	3800
1997	5500	350	5850
1998	3895	1700	5595
1999	1186	800	1986
2000	4025	700	4725
2001	1200	0	1200

Medical and Community staffs interviewed during the mission from November 15,2001 to November 19,2001

N _i	First name	Name	Qualifications	Positions	Sex	Office
State staff						
1	Fanding	BADJI	Doctor in Medicine, competent in urgency obstetrical cares	Senior Consultant, competent in U.O.S.	Male	Medicine, Surgical unit
2	Martial Coly	BOP	Doctor in dental surgery	Dental surgeon	Male	Dental surgery
3	Abdoulaye	DIOP	Health qualified technician in anaesthesia - Intensive care	Anaesthetist in charge of intensive care	Male	Surgical unit
4	Amadou	NIANE	Qualified nurse	Supervisor of primary health cares	Male	Primary H. Cares supervisor office- DG
5	Mamadou	NDIAYE	Qualified nurse —operator assistant in U.O.S	Person in charge of Leprosies- Operator assistant	Male	Medicine - Leprosy
6	Jean Fran ois D.	THIAW	Qualified nurse	Major	Male	Medicine - Major office
7	Aminata	BODIAN	Qualified mid-wife	Assistant mid-wife	Female	Maternity
8	Serigne	DIOP	Health agent	Person in charge of PNT	Male	Medicine - PNT
9	El hadji dit Demba	DIA	Hygiene agent	Person in charge of EVP	Male	EVP office of the district
10	Fidel	DIATTA	Hygiene agent	Acting assistant of the person in charge of hygiene	Male	Hygiene S/brigade
Staff employed by the Health Committee						
11	Cheikh Bouya	NIANG	Qualified technician in Biology	Person in charge of the laboratory	Male	Laboratory)
12	Ibrahima	KA	Technician in maintenance	Person in charge of the district maintenance	Male	District
13	Bouba	SANGHARE	None (trained in the selling of tablets)	Tablet store manager of the district	Male	District tablet store
14	Yaye	DIARRA	Polyvalent matron	Matron	Female	Maternity
15	Amoul	CISSE	Polyvalent matron	Matron	Female	Maternity
16	Amadou Baba	DIARRA	Trained in IB	CDS president of the District	Male	District
17	Samba	GUINDO	Trained in IB	District treasurer	Male	District
18	Koly	NDIAYE		CDS Vice-president	Male	Health Committee office
19	Samba	CISSE	Nurse assistant -ASC	ASC - Nurse assistant	Male	Medicine doctor office
20	Amadou	GAKOU	Audio-visual assistant	Audio technician	Male	District
Staff employed by the Regional Conseil						
21	Yoro	DIA		ASC	Male	Maternity
22	Mamoudou	DEMBELE	Nurse assistant -ASC	ASC	Male	Hospitalisation Post
23	Tidiane	CISSE	Ticket selling	Ticket seller (morning)	Male	Ticket selling office

GOUDIRY WOMEN GROUPING "BAAMTARE

List of Participants

First name and Name	Age	Number of children	Occupation	Size of the household	Ethnic group
KHADY SOW	28	4	Householder	20	Poular
AMY DIOP	39	10	Trader	37	Poular
AISSATA DIAGANA	23		Householder	20	Bambara
KHADY TALL	43	6	Householder	25	Poular
AMINATA DIABY	45	7	Householder	20	Bambara
NENE GUISSSE	22	2	Householder	7	Poular
SIRA BA	30		Householder	25	Poular
FOUNE SY	50	6	Householder (President of GPF)	20	Poular
COUMBA SIRA DIARRA	50	3	Trader	15	Poular

GOUDIRY YOUNG PEOPLE ASSOCIATION

List of Participants

First name and Name	Age	Level of education	Activities
MOUSSA DIALLO	33	Secondary school	Market Gardening / Plantation
PAPE DIALLO	21	None	Joinery
MOUSSA DIARRA	40	Primary school	Agriculture
AMADOU CISSE	36	Primary school	Mechanics
MAMADOU CISSE	38	Secondary school	None
MAKHAN DIARRA	36	Primary school	Mechanics
SOULEYMANE SY	16	Secondary school	Student
KEFING TOURE	15	Secondary school	Student
AMADY SY	20	Primary school	Joinery
ABDOULAYE GUEYE	17	Secondary school	Student
MAMADOU MAKALOU	13	Secondary school	Student
MAMADOU DIENG CISSE	34	Primary school	Drawing /Painting
MAMADOU NDIAYE	14	Secondary school	Building trade / Decoration

FOCUS GROUP WITH THE YOUTH OF GOUDIRY

The "*Amicale des Jeunes de Goudiry*" (Youth Group) was created in 1975. There are about 300 young people from the Sports and Culture Associations from the 6 districts of Goudiry.

The members are mostly young men. Their main activities are :

- Sports (football) ;
- Culture (Acting, cultural meetings) ;
- Sensitization ;
- Public sanitation

The Japanese volunteers participated in the sensitization, sports and public sanitation activities. They helped organizing football tournaments during which the youth were told about prevention of AIDS and other STDs, malaria, etc... The volunteers used to bring audiovisual equipment with them, gave jerseys and a cup for the winners. The Goudiry youth took care of the organization (convocation, schedule of the games, chairs, etc...)

As for the public sanitation, the volunteers had given two wagons to the Youth Group for the transportation of the waste. Today there is only one left, and it is damaged.

The actions at the level of the sanitary district were beneficial to the population. The volunteers equiped it to improve the quality of the cares. They also helped building health posts in remote areas that really needed places like this.

The youth think the volunteers were very much appreciated, and that their actions were beneficial. They were very polite, disciplined, and did not discriminate on the basis of religious beliefs, ethnies or social status. They liked children and young people. They were nice and sociable. They dressed up as Africans, took Senegalese names and participated in all the important celebrations of the village. They were so well integrated that two of them got married to young people from Goudiry.

グディリ医療センター・機材リスト

LIST OF THE EQUIPMENT SUPPLIED BY GOUDIRY MEDICAL
PROJECT (1992-1998)

Designation	Number
Audio-visual equipments	
Camera	2
Television set	2
Projection	2
Grant screen	2
Video player	2
Regulator	3
Diapo projector	2
Microphone	2
Tape recorder	2
Amplifier	1
Baffle	2
Electricity generator	3
Image box	7
E-43 tapes	7
E-120 video tapes	46
Extension cord	2
Neon portable lamp	1
Jerrican	1
Logistiques	
4 x 4 Cars	2
Yamaha 124 Motobikes	2
Others equipments	
Solar refrigerator	1
Solar Panel	1
Incinerator	1
Microscope	1
Micro-computer	2
Printer	1
Photocopier	2
Other realisations	
Drilling wells of the medical center	1
Building of health posts	3
Building of that for ICP	1
Redoring of health post	2
Opening of a waiting room in pедиатry for urogene	
Equipping of the medical center meternity	
Building and equipement of the analysis laboratory	
Redoring of Ibrahima Sadio reception center	
Building of canopies and waiting benches in the health center	
Building of the health center reception block	
Building of a training center	
Building of a talk hut for women	

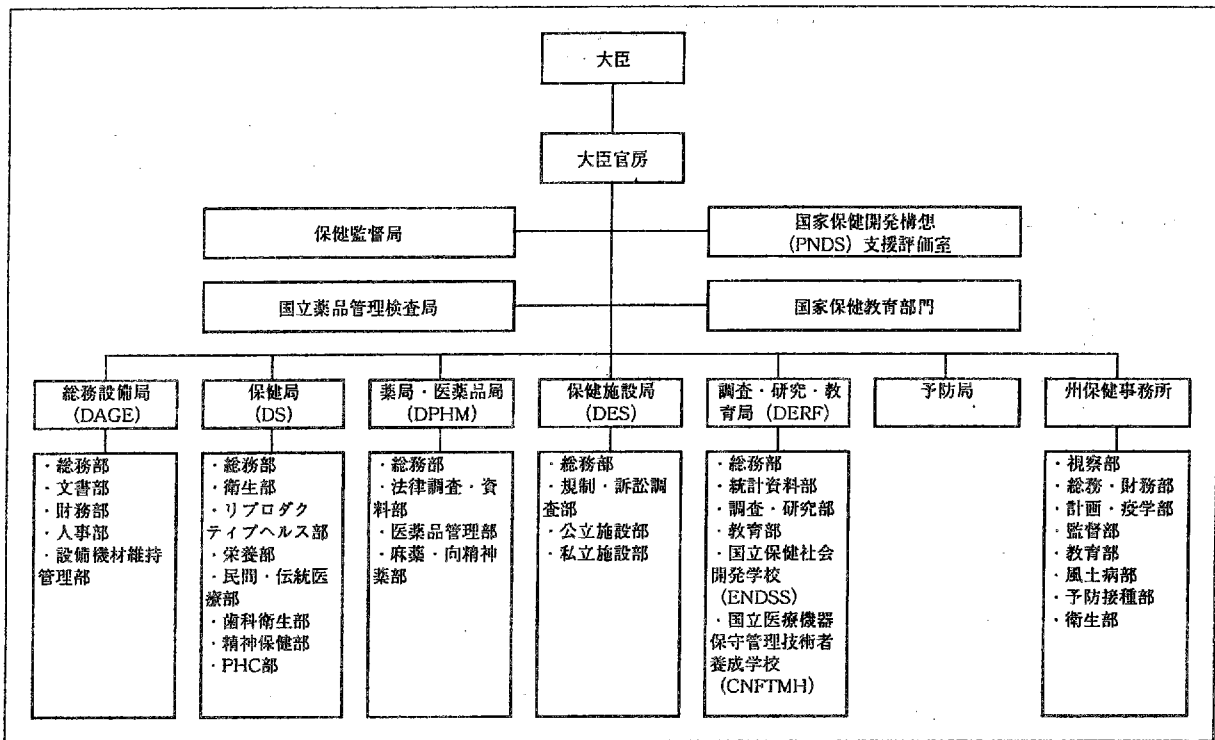
LIST OF THE EXISTING EQUIPEMENT OF GOUDIRY MEDICAL PROJECT (NOVEMBER 2001)

Designation	Number	Observations (present condition)
Audio-visual equipments	2	In good condition
Camera	2	1 in good condition and 1 broken down
Television set	2	1 in good condition and 1 broken down
Projection	2	1 in good condition and 1 broken down
Grant screen	2	1 in good condition and 1 broken down
Video player	3	1 in good condition and 1 broken down
Regulator	2	1 in good condition and 1 broken down
Diapo projector	2	1 in good condition and 1 broken down
Microphone	2	1 in good condition and 1 broken down
Tape recorder	1	1 in good condition and 1 broken down
Amplifier	2	1 in good condition and 1 broken down
Baffle	3	1 in good condition and 1 broken down
Electricity generator	7	2 in good condition and one broken down
Image box	7	In good condition
E-43 tapes	46	In good condition
E-120 video tapes	2	In good condition
Extension cord	1	In good condition
Neon lamp	1	In good condition
Jerrican		In good condition
Logistiques	2	
Cars	2	1 in good condition and 1 broken down
Yamaha 124 Motobikes		In good condition
Others equipments		
Solar refrigerator	1	In good condition
Solar Panel	1	In good condition
Incinerator	1	A little bit functional
Microscope	1	In good condition
Photocopeer	2	Broken down

LIST OF THE EQUIPMENT SUPPLIED BY OTHERS PARTNERS

Designation	Donors
Equipments	
Dental surgery equipment	NGO "Santé SUD"
Surgical Unit equipment	African Bank of Development (ABD)
Maternity equipment and echography	Saudi Arabia Kingdom
Blood bank equipment	African Bank of Development (ABD)
Logistics	
Ambulance	Taiwan Government
Ambulance	African Bank of Development /PDIS
17 mtobikes	African Bank of Development /PDIS
Other equipment	
Refrigerator	African Bank of Development /PDIS
Other realisation	
Building of 2 health posts	NGO "Santé SUD"

セネガル保健セクター組織図



12 ボランティア協力の良い点と悪い点を挙げて下さい

13 ボランティア協力の向上のための提案

14 この評価からどのような教訓を得ましたか？

FATICK 地方

海外青年協力隊の評価のためのアンケート (野菜・農業・果樹栽培)

調査員氏名： _____
日付： _____

対象：受益者

1 ボランティア側

- ・ 姓 _____ ・ 名 _____
- ・ 実施日時 _____
- ・ 受け入れ組織 _____ ・ 協力分野 _____
- ・ 場所 _____

2 受益者側

2-1 組織・団体名

- ・ 創立年 _____ 村名 _____
- ・ 調査法人（組織）名 _____ 身分・村名 _____

2-2 個人

身分

3 受益者の活動

- a 主要活動
- b その他の活動

4 何が困難でしたか？

5 ボランティアの協力

- ・ 村への到着日時
- ・ ボランティアの任務目的
- ・ ボランティアの協力計画
- ・ ボランティア協力活動の評価
- ・ より良い協力のための提案

6 受益者の期待

7 コミュニケーションは容易でしたか？

- はい・説明して下さい
- いいえ・理由を答えて下さい

8 ボランティアにより実現した事

9 ボランティアにより改良された点（詳しく）

10 生産システムに変化がありましたか？

- はい・どのようなものですか？

いいえ・なぜですか？

- 11 ボランティアたちとの人間関係の質
- 12 訪問ツアーについて
 - ・ 訪問目的
 - ・ 期間
- 13 村における減速 (demultiplication) 効果
 - ・ 住民たちへの影響
- 14 あなたの組織もしくはあなた自身の良い点とウイークポイントは何ですか？
- 15 あなたやあなたの組織の能力向上のために必要なものは何ですか？
- 16 この評価からどのような教訓を得ましたか？

FATICK 地方

海外青年協力隊の評価のためのアンケート (保健・農村開発)

調査員氏名： _____

日付： _____

対象：受益者

- 1 ボランティア側
 - ・ 姓
 - ・ 職業
 - ・ 実施日時
 - ・ 場所
 - ・ 名
 - ・ 協力分野
- 2 受益者側
 - ・ 姓
 - ・ 身分
 - ・ 名
 - ・ 村名
- 3 ボランティアの任務
- 4 ボランティアの協力計画
- 5 受益者の期待
- 6 コミュニケーションは容易でしたか？
はい・説明して下さい
いいえ・理由を答えて下さい
- 7 ボランティアにより実現された事
- 8 ボランティアの訪問回数とその目的
- 9 訪問期間

- 10 ボランティアの協力により変化したこと
- 11 ボランティアとの人間関係
- 12 ボランティアの協力方法についての評価
- 13 より良い協力のための提案
- 14 ボランティア協力の良い点と悪い点
- 15 あなたの居住地における保健上の問題点は何ですか？
- 16 この評価からどのような教訓を得ましたか？

議事録

リスト

セネガル全般

JICA 事務所

公務雇用省

井上専門家

緑の推進協力プロジェクト関連

森林局

クールムッサ郡知事（ローカルコンサルタント作成）

ティエス森林局（ローカルコンサルタント作成）

ティエナバ郡知事（ローカルコンサルタント作成）

グディリ医療プロジェクト関連

タンバクンダ州政府

タンバクンダ州議会事務所

保健予防省

タンバクンダ州医療事務所（ローカルコンサルタント作成）

グディリ郡知事（ローカルコンサルタント作成）

グディリ医療圏主任医師兼グディリ医療センター所長（ローカルコンサルタント作成）

議事録

主な課題	JOCV・チーム派遣の成果・支援体制
訪問先名(場所)	JICA セネガル事務所
日時	2001年11月30日(金) 11:00-9:30
面会者	黒川所長
調査団出席者	宮原職員、石川調整員、平野調整員、坪内調整員、駒澤(記録)

協議内容

所長からの主なヒアリング内容は、以下のとおり。

<協力隊隊員に求めるもの>

・チーム派遣に関しては、具体的に地域にインパクトを残していると思う。しかし、協力隊事業においては、技術協力における「技術移転する」という呪縛に縛られてはいけないと考える。私自身、隊員に常に語り続けていることは、フランス語の「la vie」という言葉のように、人生、命、生活などさまざまな意味を持つ活動であることを忘れないで頂きたいということだ。つまり、C/P への技術移転のみでなく、任国での暮らし、人との交わり、感じたことなどすべてが「成果」となるということである。

<チーム派遣の新しい可能性>

- ・協力隊事業は、JICA の協力の指針である「国別援助実施計画」に則って派遣されるべきである。
- ・「とりで構想」。
- ・シニア隊員による地域開発戦略の作成。マルチセクター協力の案件形成の担い手として。
- ・チーム派遣・グループ派遣の利点。JOCV のグループ化によるプロジェクト方式は大きなパワーを發揮できると思う。この場合、セクター別ではなくマルチセクター的に異業種を必要に応じて組み合わせ、ゆるやかに連携するのが望ましい。理想的には、現場で隊員自身が必要性に基づいて自分たちで出会い、連携を模索する自然発生的なものがいいと思う。
- ・隊員投入の継続性は重要であるが、提案にあった「母港方式」はボランティアの理念と矛盾すると考える。やはり、行きたい人が行きたいポジションに応募できることが原則である。

<支援体制>

- ・セネガル事務所では、隊員の支援は事務所とシニア隊員の2階立て方式になっている。まず、隊員を所管するシニア隊員が中心となって相談に応じ、調整する。それでも解決できない問題は、シニアから事務所(調整員→次長→所長)へ上がってくる。案件形成、配属先等の調整、報告書、精算等、すべてシニア隊員がスクリーニングをかけることになっている。
- ・事務所の支援は、生活・安全面での支援は当然であるが、その上に以下の3点に力を注いでいる。

1) 隊員同士の勉強の機会の提供

セネガルでは、隊員自主企画により 4 つの分科会（勉強会：村落会、子供会、医療会、農業会）が組織され、隊員活動に有益な情報の提供、享受、研究が行われている。これらの活動は非常に活発で、事務所としても積極的に支援している。例えば、子供会にはセネガル人のスタッフ（高級クラーク）を雇用し視察先やヒアリング先のアレンジ、医療会ではプロ技の訪問アレンジなどにより専門的な助言を得ている。また、各分科会での勉強会を終了時には報告書が提出される。分科会以外にも、4 つの委員会（幹事会、交通安全委員会、隊員連絡所係、機関誌「バオバブ」編集委員会）が存在し、隊員同士での活動の円滑な推進を図っている。

2) 報告書へのコメント

隊員の報告書は、まずシニア隊員が目を通した後、調整員が要約作成、所長、次長が必ず目を通し、そして、地域開発の視点からコメントをするようにしている。これは、隊員の励みになるようである。また事務所としても個々の隊員の状況をできるだけ把握するように努める努力の一貫となっている。

3) 事務所と隊員のコミュニケーション

事務所では、できるだけ事務所の考え方・姿勢を協力隊員に伝え、また同時に隊員からの意見を聴取するよう努力している。例えば、隊員活動報告会（赴任3ヶ月時、1年、帰国時に実施）を定期的実施し、隊員が発言する機会を作っており、その場へできるだけ所長、次長が出席し、隊員の報告を聞き、必要があれば、コメントする。また、ホームページや紙面（「サヘルの風」（セネガル事務所2ヶ月に一回発行）」等）によって、隊員にできる限りの情報提供を行うよう心がけ、同時に隊員から情報提供も受けている。隊員から質問、提言があった場合も、誠意をもって回答するようにしている。

4) 隊員情報の蓄積

隊員の報告書は貴重な情報源である。現在、隊員有志および調整員によって、そのデータベース化を行っているところである。それによりキーワード、職種等による隊員報告書のピックアップが可能となる。現在データ作成中である。

<隊員の評価について>

・ 11月19～20日にパリで開催された調整員会議においても隊員の評価について議論になった。セネガルでは、ファティック州の隊員配属先の農村開発局ファティック州事務所長の強い要請により、試行的に隊員評価を実施している。同所長とシニア隊員による、アンケート票を用いた「住民による評価」¹である。

¹ 評価の目的は、・ 隊員活動パートナーのJOCV理解度を測る、・ 活動受益者に対する隊員活動の効果を測る、・ JOCVの長所と短所を見極める、・ 隊員と配属先の協力のあり方を位置づける、・ 隊員活動評価システムを確立する、である。評価の手順は、1) 協力隊員及び隊員受入機関に対して評価活動について説明する、2) 隊員受入機関及び隊員の活動対象者に対してアンケート調査を行う、3) 各郡において村楽議会と村人の参加の下、アンケート結果をもとに意見交換会を行う。

<グループ的派遣の変則案>

・現在、検討中のグループ的派遣の変則案がある。日本の無償で建設した「ティエス病院」のフォローアップとして、複数の看護婦隊員と年3か月程度の婦長クラスのシニアボランティアを組み合わせるという形態である。

・チーム派遣の予算について。チーム派遣やグループ派遣にまとめて予算がつくという現在の形態よりも、その予算総額を事務所の裁量で、セネガル国全体の協力隊活動に戦略的かつ公正に分配できるようになればよいと考えている。

<セネガルの特殊性>

・セネガルにおいては、ほとんどの隊員が何らかの形で「村落開発」に従事しているといえ、今後「村落開発普及員」一本で要請を出してもいいくらいである。一般に、農業隊員、看護婦隊員など技術移転に忙殺されて、目の前の住民の真のニーズを見落としがちである。農業隊員であっても運営指導の知識・ノウハウが必要である。一方、村落開発普及隊員は、基本的な農業の知識は身につけてきて欲しい。それぞれは、両方の視点と知識を持っていることが望ましい。そういう基本的な研修を本邦研修で付加させられないか。

<他スキームとの連携>

・案件形成という意味では、協力隊活動は他スキームに大きく貢献している。セネガルで現在実施されている「マングローブの開発調査」は20年に及ぶ協力隊員の活動の蓄積の上に形成された。また、現在派遣中の協力隊員も関わっている。さらに、これから始まる「子供ための開発調査」も保健・教育・地域福祉の分野での協力隊活動の実績に大いに関係している。

・また、現在実施されているプロ技「地域総合植林開発プロジェクト (PRODEFI)」は、グデイリ医療プロジェクトのOB天谷隊員が参加しており、チーム派遣プロジェクトの経験を生かしながら、住民参加型・ニーズ密着型の植林+生計向上のプロジェクトを展開している。

・しかし、これらの開発調査や無償に、協力隊員を取り込むのは賛成しない。一つにはR/Dの段階から協力隊が位置づけるのは不可抗力の多い協力隊事業において実質的に危険であると考えからである。また、協力隊の理念からもコンサルタントの下に手足のように取り込まれるのは相容れないと考える。コンサルタントと協力隊が現場で出会い、お互いに情報を共有化し、立場の違いを認識しつつ活動できる場合のみ、実現されるべきである。

<国際協力人材育成の観点>

・自分の知る限りでは、隊員OB/OG60名のうち10名以上が留学または国際開発分野に進学している。

・個人を伸ばすという点で、まず人材育成の効果は大きい。また、前述したように隊員OB/OGが他スキームに専門家として関わったり、コンサルタントと関わったりしている事例は枚挙にいとまがない。

議事録

主な課題	JOCV 受入機関による JOCV 評価
訪問先名 (場所)	公務雇用省
日時	2001 年 11 月 29 日 (木) 10:00-11:00
面会者	公務雇用省社会協力局長
調査団出席者	宮原職員、平野調整員、Doucoure 現地事務所高級クラーク、駒澤 (記録)

協議内容

主な聞き取り内容は、以下のとおり。

局長：

- ・私自身はこの任に 7 年前から就いており、JOCV の活動について非常に感謝している。
- ・特に JOCV は、開発効果だけでなく、地域住民と一緒に活動し、住民組織を形成するという過程に大きな意義がある。また、地域住民が日本のことを知り、日セの交流にも大きく貢献している。
- ・ JOCV に関する課題としては、適切な隊員の選択、十分な研修、動機に基づいた計画策定 (案件形成) が挙げられる。

○研修について

- ・各援助機関のボランティアは、異なるアプローチをとっているが、相互に補完できると部分があると思う。例えば、JOCV はピースコーに比べて、研修の質の向上も課題である。ピースコーは 1960 年からボランティアを派遣し 63 年から研修センターでの研修 (本国での現地語習得のあと、現地研修 3 か月、ホームステイあり) を開始しており、研修に関する長い経験と実績がある。JICA も同センターの研修内容をもっと参考にしたらどうか? (実際は 2 年前から同センターに研修を委託し、同様の研修を行っている)
- ・現地研修の最後に、C/P が研修に 2~3 日合流して、隊員と C/P が一緒に活動計画を策定するというのはどうか。
- ・ JOCV は他ボランティアに比べて、派遣期間が短いのも問題である。

○案件形成について

- ・ JOCV は ODA として日本の国民の税金によって実施されているのだから、投入に見合った効率的な活動を行うべきである。また、そのためにはセネガル国民のニーズを開拓し、案件形成をしていかなければならないと考える。
- ・つい最近、JICA セネガル事務所と協議をし、今後はブルーシートから要請案件を選択する作業は当局と JICA 事務所と共同で行うよう話が進んでいる。
- ・今後、セ日両政府間で、年 3 回ほど定期的な会合を持って、セネガル政府としてもニーズを提示し、さらに実施体制の改善のために協議していきたい。

○広報活動

・一般的に住民は情報 JOCV のことについて理解していない（物質を提供するのではなく技術を移転するという目的等）。もっと住民と情報を共有できるような体制ができないか。

○評価システム

・前述のような、案件形成、研修、十分な情報の共有ができて始めて、評価システムができる。

○チーム派遣について

・ティエスの緑の推進プロジェクトは貴重な経験で、自立発展しており、良い効果も上がっている。C/Pの研修員受入もよい成果を上げている。

○セネガル政府の協力

・セ政府としては、これまでとおり隊員の住宅確保に全面的に協力していく。

○ JOCV の印象について

・まじめで、がまん強く、礼儀正しく、かつ異文化を受け入れる素養がある。

議事録

主な課題	これからの JOCV 派遣戦略
訪問先名 (場所)	在外事務所
日時	2001 年 11 月 29 日 (金) 14:00-15:00
面会者	井上専門家 (内務省政策アドバイザー)
調査団出席者	駒澤 (記録)

協議内容

井上専門家はセネガル緑の推進協力プロジェクトの第一次隊 OB であり、現在のセネガル内務省の政策アドバイザーとして派遣されている。同専門家の TOR にセネガルにおける JOCV 戦略を策定することも入っていることから、その点を中心にお話をうかがった。主な聞き取り内容は、以下のとおり。

(1) 主な TOR

同専門家の主な TOR は、①セネガルにおける村落開発の援助方針を策定する、②A1 フォームの改訂と活用の検討、③JOCV の調整・支援である。

(2) JOCV 全般について

- ・これまで JOCV 事業はボランティアとしてあまり成果や評価について問題にされなかったが、これからはしっかりした計画を立てなければ、その評価が求められることになる。協力隊の活動効果とは、協力隊自身と活動先がお互い「幸福」であるかどうかということであろう。

- ・最近の隊員は、配属先からの業務の指示を待つという傾向が強い。従って、配属先が無関心だと自分のする仕事がないと感じる。

・ JOCV の課題

配属先が JOCV 事業のことをよく知らないということ、配属先が隊員をどう扱っていいかわからないという点であろう。協力隊活動をよく知ってもらい、よくするために「第三者評価」(村人、派遣先による)が効果的であろう。隊員からよく聞く話としては「配属先が無関心」「援助漬けで、お金ばかり欲しがらる」という指摘があり、その解消に効果がある。

(3) セネガル事務所の試み

- ・同事務所は、JOCV 事業をセネガル側に理解してもらうために、JICA 事業の広報活動に力を入れている。一つには今年から始めた「JICA/JOCV セミナー」がある。2001 年 2 月にファティック州 (現在、1 名のシニアの下、19 名の隊員を派遣中) において初のセミナーを開催。また 2001 年 11 月にはカオラック州 (同月新シニアが配属された) において第二回目を開催した。

- ・このセミナーを全国で開催していく予定。(北部地域にもう一名のシニア隊員を配置予定)。同セミナーでは、もっとこのようなセミナーを開催して欲しい、協力隊の職種を増やして欲しい、

延長+引き継ぎの問題（語学研修期間は空白になる、引き継ぎのための延長を認めて欲しい）などの要望がセネガル側配属先・受入機関から出た。

- ・要請開拓について。A1フォーム（要請書）の改訂。計画書の添付を検討中。
- ・配属先と月1回調整会議を行うよう奨励している。（県から郡レベルまで指導している）

(4) チーム派遣について

- ・ポジティブな面としては、アピール力がある点、インパクトが見えやすい点で、総じて裨益国側の好感度が高い。
- ・派遣前に本人への十分な説明が必要。
- ・活動過程で隊員自身が得たものが大きい。

(5) 専門家としてのこれからの業務

- ・タタギンヌにおける計画グループ的派遣の計画作りの支援。
- ・村人の研修のための研修センターを作り研修していく（長官の意向）
- ・協力隊事業の体制整備。特に、要請開拓の方法：日本側とセネガルから出た要請書を一括して集めて、公務雇用労働省の協力局長と2者による検討会を開き要請内容を吟味する機会をもちたい。

緑の推進協力プロジェクト関連

議事録

主な課題	森林局の政策と JOCV 評価
訪問先名 (場所)	森林局
日時	2001 年 11 月 20 日 (火) 9:00-9:30
面会者	森林局長、森林次長、造林保護部長、砂丘植林プロジェクトリーダー
調査団出席者	藤村森林局個別専門家、宮原職員、平野所員、Doucoure 現地事務所高級クラーク、駒澤 (記録)

協議内容

主な聞き取り内容は、以下のとおり。

局長：

- ・ JOCV の活動によって国民の植林に対する意識は高まった。
 - ・ JOCV のプロジェクトによる教訓を活かして、政策作りに反映している。
 - ・ 特に JOCV は草の根レベルで活動をしており、直接住民に対して啓発できるという点で重要である。また地域における植林活動を通じて地域開発にも貢献した。
 - ・ できれば、今後も同様なプロジェクトを展開していただきたい。
- (宮原：現在、54 名の JOCV が活動している)

・ 造林保護部長：これまでもプロ技と他スキームとの連携をいろいろ提案してきたが、もし JOCV 側に興味があるならば、今後他スキームとの連携も考えられる。例えば、無償と JOCV、プロ技と JOCV など、特に施設を整備した後の普及活動に JOCV が活躍できる場は多いと思うので、うまく組み合わせていければいいと思う。

・ 砂丘植林プロジェクトリーダー：現在、JICA の砂丘植林プロジェクトを担当している。植林を行うだけでなく、地域の農民は野菜栽培など商品化作物の生産に対する期待が高いので、そこにも JOCV の活動の余地はある。

・ 次長：これまで JOCV と一緒になっていろいろな活動を行ってきた、様々なインパクトを得ている。ティエスのプロジェクトでは、公営苗畑が整備され、在来種の樹種を植え、今も残っている。これらの活動を住民を巻き込んで行ったので、住民の認識も高い。地域振興という意味でも、JOCV の活動は非常に意義がある。

・ 砂丘植林プロジェクトリーダー：PROVERS では年間 200 万本の苗木生産量が増加し、セネガル全体で 2000 万本増加し、現在もその生産量は維持しているが、現在では年間の必要量がさら

に増え、1億本が必要である。

・造林保護部長：プロジェクト形成について。現在までに苗畑造成の無償を第3次まで終了した。現在、第4次を申請中である。この第4次がもし実施されることになったら、JOCVにも参加してもらいたい。

VISIT TO THE KEUR MOUSSA SOUS PR FET (クールムッサ郡長)

On November the 26th 2001, at 10 o'clock, the PROVERS evaluation mission has met Mr Amadou Bamba SYLLA, Keur Moussa s *sous pr fet*, with the participation of the Center for Rural Developpement (CERP) team.

Mrs Miyahara (chief of mission) began by introducing the members of the team, before explaining the goal of the mission, which consisted in an evaluation of the PROVERS project and its sustainability in the areas of Keur Moussa and Thi naba. She also thanked the *sous pr fet* for the warm welcome he had given to the mission team.

After her, Mr Di m , Forestry Agent and a member of the CERP in Keur Moussa, also responsible for the nursery and in charge of the assistance to the Japanese volunteers, underlined the importance of the PROVERS intervention in his *arrondissement*.

According to Mr Dioum, who heads the CERP, PROVERS has helped solving a number of highly important problems that were obstacles to the development. He pointed out, among other things, the problem of the access to water, in particular in Ngomene.

Sous prefet Sylla greeted the mission team, and insisted on the excellent quality of the relationship between the Japanese government and its Senegalese counterpart; He also said how much he appreciated the intervention of PROVERS, the results of which are obvious in the *arrondissement*.

But *sous prefet* Sylla also deplored the lack of collaboration between the Japanese Volunteers and the Administrative services. This is why he particularly enjoyed the mission s courtesy visit.

To conclude, *sous prefet* Sylla thanked the Japanese government for its help as to the development of Senegal.

VISIT TO THE THIOS FORESTRY AGENCY (EAUX ET FOR TS) (水利局員)

In the afternoon of November the 26th 2001, the PROVERS evaluation mission has met Mr Cl ment Di dhiou, Thi s forestry agent, with the participation of Mr Mansour Diop.

Mrs Miyahara (chief of mission) began by introducing the members of the team, before explaining the goal of the mission, which consisted in an evaluation of the PROVERS project and its sustainability in the areas of Keur Moussa and Thi naba. She also thanked the Forestry Agency s team for the warm welcome they had given to the mission team.

In their speeches, Mr Di dhiou and Mr Diop have both underlined PROVERS impacts on the production of plants in the Diakhao (Thi s), Thi naba and Keur Moussa nurseries.

This contributed to make of Thi s the number one region as regards the production of plants every year since 1986. The Japanese engineers also taught the population how to save water and to use fewer workforces to produce plants.

In the Keur Moussa *arrondissement*, the better environmental conditions allowed the

production of fruit trees.

According to Mr Mansour Diop and to Mr Di dhiou, the downside of the PROVERS was the insufficient communication between the volunteers and the Administrative services. They also underlined the problem of the coordination of the volunteers work, though this situation improved after the arrival of a Japanese expert.

To conclude, Mr Di dhiou thanked the Japanese government for its support to the actions in the field of development that were initiated in the region.

VISIT TO THE THIENABA SOUS PREFET (ティエナバ郡長)

On November the 27th 2001, the PROVERS evaluation mission has met Mr Alioune DIOP, Thi naba *sous pr fet*, with the participation of the CERP team.

Mrs Miyahara (chief of mission) began by introducing the members of the team, before explaining the goal of the mission, which consisted in an evaluation of the PROVERS project and its sustainability in the areas of Keur Moussa and Thi naba. She also thanked the *sous pr fet* for the warm welcome he had given to the mission team.

Sous pr fet DIOP greeted the mission team. He also said how much he appreciated the quality of intervention of PROVERS, and that he was sincerely happy to welcome a Japanese delegation in his *arrondissement*.

Sous pr fet DIOP has expressed his contentment as regards the collaboration with the Japanese volunteers, and said he considered PROVERS a success for the *arrondissement*.

Sous pr fet DIOP insisted on the excellent quality of the relationship between the Japanese and Senegalese governments.

Eventually, he wished the best of luck to the evaluation team and hoped their analysis of PROVERS would identify positive results.

グディリ医療プロジェクト関連

議事録

主な課題	保健予防省の政策と JOCV 評価
訪問先名 (場所)	保健予防省
日時	2001 年 11 月 29 日 (木) 9:00-9:30
面会者	保健局長
調査団出席者	宮原職員、平野調整員、Doucoure 現地事務所高級クラーク、駒澤 (記録)

協議内容

主な聞き取り内容は、以下のとおり。

局長：

- ・私自身はこの任に4か月前に就任したばかりであるが、グディリ医療センターの元所長・サホ医師とは面識があり、グディリ医療プロジェクトについては聞いているところである。
- ・技術移転について。セネガルの公務員人事は通常3年で異動し、医療機関のスタッフも同様であり、ドナーによる技術移転を受けてもすぐ異動してしまい、技術移転が定着しないという問題を抱えている。最低5年にすべきであると考え。
- ・自立発展について。助産婦の研修はいまも継続して行っている。機材の維持管理については、前述の異動の問題もあり、継続が難しい状況である。
- ・JICAによる新しいプロ技「保健人材開発促進プロジェクト」が11月からスタートした。セネガルでは「アクションプラン 2000-2003」を策定し、セクターごとに実施計画を作成しているが、保健セクターの人材開発もその1つのテーマで、年間予算も確保している。JOCVのグディリ医療プロジェクトの経験を生かしていきたい。そのために、先週火曜日からセネガル側とJICAセネガル事務所との間で、協議を始めたところである。

議事録

主な課題	表敬
訪問先名（場所）	タンバクンダ州政府
日時	2001年11月21日（水） 12:30-13:00
面会者	タンバクンダ州行政担当副知事、同開発担当副知事
調査団出席者	宮原職員、阪口企画調査員、大出シニア隊員、駒澤（記録）、GERAD スタッフ計4名

協議内容

宮原職員が今回の評価調査に関する概要説明を行った後、グディリー医療プロジェクトに関する感想などを伺った。主な聞き取り内容は、以下のとおり。

行政担当副知事：

・タンバクンダ州はたいへん貧しい州であり、多くの問題を抱えている。そんな中で JOCV のプロジェクトが初めて実施されたことに大変感謝している。同プロジェクトは、草の根レベルで住民と直接接し、住民の生活を変化させた。

・しかし、未だにグディリー医療センターは問題があり、プロジェクトのフォローアップを望む。また、スタッフや地域住民の訓練・研修が十分でないので、その面の支援も望んでいる。

・最近、他の JICA のプロジェクト調査（多分、開発調査のこと）の調査団が訪れた。JOCV のプロジェクトの経験を新しいプロジェクトにも生かして欲しい。

議事録

主な課題	表敬
訪問先名（場所）	タンバクンダ州議会事務所
日時	2001年11月21日（水） 15:00-16:00
面会者	タンバクンダ州議会主席副議長、事務局長
調査団出席者	宮原職員、阪口企画調査員、大出シニア隊員、駒澤（記録）、GERAD スタッフ計4名

協議内容

宮原職員が今回の評価調査に関する概要説明を行った後、グディリ医療プロジェクトに関する感想などを伺った。主な聞き取り内容は、以下のとおり。

タンバクンダ州議会主席副議長：

- ・同プロジェクトは、グディリの生活環境の向上に大きく貢献しており、感謝している。住民に対して直接活動していたことは意義深い。
- ・グディリ医療圏は大変広いが、十分な病院はなく、重篤な患者はタンバクンダ州立病院までいかなければならない。
- ・プロジェクトで整備されたグディリ医療センターの手術室も、現在ではメンテナンスが難しく、資材も不足している。これらの技術的支援のための要員が必要である。

事務局長：

- ・当州議会は、1996年から創設され、地元から選出された42の代表（任期5年）からなり、中央政府から2人（行政管理、技術担当）の行政官が派遣されている。中央政府から予算交付がある。
- ・当州議会には9つの担当セクション（保健、教育、文化、計画、都市計画、環境、土地、スポーツ、社会活動）がある。
- ・州における保健関係予算は、ここからとタンバクンダ州立病院からの2つの流れがある。ここでは州立病院とグディリ医療センターを支援している。予算（燃料代、電気等の維持管理費、人件費）と資材の両面を供給している。またグディリ医療センターでは5人のスタッフを雇用している。（年間？）予算額は700万CFAである。

MEETING WITH THE SENIOR CONSULTANT OF THE REGION OF TAMBACOUNDA

(ダンバクンダ州医療事務所)

The mission team paid a visit to the Senior Consultant of the Region of Tambacounda on Nov. 22nd, 2001, at 9AM

Attended to the meeting :

Dr Lamine DIAWARA, Senior Consultant of the Region of Tambacounda
Dr Bawe Kossi Naraf i, Direstor of the Health Care Centers of TOGO
Mrs Chie MIYAHARA, Chief of Mission
Mrs KOMASAWA Makiko; Consultant
Mrs Rie ODE, JOCV coordinator Regions of Kaolack and Tambacounda
Mrs Kayo, JICA
Mrs Aminata NIANG, GERAD;
Mr Amadou DIOP, GERAD;
Mr Ndary TOURE, GERAD;
Mrs Cousson TRAORE, GERAD.

Mrs Miyahara, Chief of mission, presented the goal of the evaluation mission, the members of the team, and the schedule of the mission.

The Senior Consultant, in the name of the population and of the medical staff, thanked the JICA for the Medical Project of Goudiry. He then stated that he had only been in charge for the past 5 months. Nevertheless, he knows about the project and has had the opportunity to meet Japanese volunteers several times, as he was the coordinator of the campaign against Onchocercosis in the region of Tambaounda.

He thinks that the medical project of Goudiry was really beneficial for the population of the distrit of Goudiry. He also underlined the fact that the Goudiry Health Center was one of the very few, if not the only, Health Center in Senegal that disposes of a maintenance technician. He has been hired by the health committee. The Senior onsultant thinks that this decision is due to the beneficial influence of the Japanese Volunteers, who taught them to take care of the equipment and fix it. This is, according to him, a transfer of knowledge, and a transfer of a good habit.

Answering the questions of the mission team, the Senior Consultant has explained how the health care system of the Tambacounda region was organized.

He also underlined that the region of Tambaounda was the largest and the poorest region of Senegal. The morbidity rate is very high and it is necessary to develop health programs to improve the population s access to basic healthcare. In the framework of the health prject FAD 1, the Senegalese government

financed (through an African Development Bank loan) the buying of one fridge and one motorcycle to each of the 7 health posts of the district of Goudiry.

The Chief of mission thanked the Senior Consultant for his reception and for his explanations.

MEETING WITH THE SOUS PREFET OF THE *ARRONDISSEMENT* OF GOUDIRY

(グディリ郡長)

The mission team paid a visit to the Sous-Pr fet of the Arrondissement of Goudiry on Nov. 23rd 2001 at 12h30.

Attended to the meeting:

Mr Mamadou DIATTA, Sous-Pr fet of the Arrondissement of Goudiry
Mr Aliou AIDARA, Sous-Pr fet s deputy
Mr Sindiang Kane SADIO, Chief of the Center for Rural Expansion (CERP) of the Arrondissement of Goudiry
Mrs Chie MIYAHARA, Chief of Mission
Mrs KOMASAWA Makiko; Consultant
Mrs Rie ODE, , JOCV coordinator Regions of Kaolack and Tambacounda;
Mrs Kayo, JICA
Mrs Aminata NIANG, GERAD;
Mr Amadou DIOP, GERAD;
Mr Ndary TOURE, GERAD;
Mrs Cousson TRAORE, GERAD.

Mrs Miyahara, Chief of mission, presented the goal of the evaluation mission, the members of the team, and the schedule of the mission.

The Sous-Pr fet has expressed his joyfulness to receive the evaluation mission of the Goudiry Medical project. He said that the volunteers were appreciated by the Goudiry population. He stated that neither the medical staff nor the population would ever forget the Japanese cooperation, which allowed them to considerably improve their access to cares and the quality of their living conditions. He added that the population often asks him :

When will the Japanese volunteers will come back to Goudiry ?

Chief of mission Miyahara underlined that the goal of the mission was first and foremost to evaluate the medical project, in order to measure its impacts and to learn precious lessons for the future. As regards the setting up of a new project, she cannot promise anything like this for now.

INTERVIEW WITH THE SENIOR CONSULTANT OF THE GOUDIRY MEDICAL DISTRICT

(グディリ医療センター)

Senior Consultant is the appropriate term for Chief Doctor .

The mission team met the Chief Doctor of the Goudiry District, Dr Fanding Badji on Nov. 22nd, 2001. Mrs Miyahara introduced the members and the goal of the mission. Mrs Komasaawa asked for precise information about the organisation of the health system in the sanitary district, as well as on the classification of the personnel.

The Chief Doctor explained that the Goudiry District, as for each and every sanitary district in Senegal, is composed of some staff members who are appointed by the State, and of some community personnel who are recruited by the Conseil R gional and the health committee.

The staff members appointed by the State are the Chief Doctor, the state-registered nurses, the dentist, the mid wives, the laboratory technicians, and the anesthetist. This is not enough staff members, so it is backed by the community personnel (non-registered nurses, mid-wives, ticket sellers...)

The Chief Doctor thinks there are 12 staff members who were recruited by the State, 5 community agents recruited by the Conseil R gional, and 17 community agents recruited by the health committee. He asks for confirmation.

The various departments are : EPV service, sorting department, hygiene department, analysis laboratory, management department, audiovisual department and maintenance.

Mrs Sakaguchi asked why the staff members seemed more dynamic and why there seemed to be a wider range of services available.

The Chief Doctor thinks that it is due to the fact that the staff members are efficient and try to meet the goals set by the government, which are about improving the sanitary cover.

Mrs Komasaawa asked for the most recent results as concerns mortality, mortality rates and the rate of visit frequency, in comparison with the objectives set by the previous Chief Doctor.

Chief Doctor Badji preferd to talk about his own objectives instead of his predecessor s. He says he has 4 main goals :

To make sure the Sanitary District works and to improve the sanitary coverage.

2) To improve the care for mothers and children. This would imply prenatal consultations, and sensitization as regards assisted childbirth—only 40% of women benefit from an assisted childbirth.

The Chief Doctor underlines the fact that he elaborated a program of sensitisation of husbands, wives and NGOs. He thinks that in order to reduce mother's mortality rate, it would be necessary to diagnose risky pregnancy as early as possible, to do the necessary surgical interventions on time. But the main problem remains that of accessibility to the health centers for women who live far away from them.

Mrs Komasa wanted to know what were the solutions the Chief Doctor had thought of to solve the problem of accessibility.

He replied that more ambulances are needed, and also more telephones in every health posts to allow the nurse to inform the health center on time, so that women can be transported in good conditions.

3) To improve the vaccination coverage in the framework of the EVP. But the problem is that they do not have the right syringes. There is no problem as regards the vaccines, which are delivered by the State.

Mrs Komasa wanted to know about the volunteers' action as regards the pupils' medical visit in schools. The Chief Doctor did not know about this activity.

4) But the fourth objective he has set is to improve the dental care of the Goudiry High School pupils.

Answering a question, he says the mother's mortality rate is of 750 casualties for 100 000 births. In comparison, it is 510 to 100 000 in the whole of Senegal. In the Kolda region, it is worse—1000 to 100 000. He also underlines the fact that the Goudiry Sanitary District's budget is too small—20 million CFA a year, when other districts have 40 million CFA a year.

The Conseil Régional is in charge of the District's budget, the funds being transferred from the State are used for the functioning of the health structures. The medical staff's requests are transmitted to the Chief Doctor quarterly, and in case of emergency. He points out that the Japanese volunteers were appreciated by the population. They inculcated to the medical staff the notions of hard work and discipline.